

㊤ 俳句俳画寿互録

五味松塘編 益田柳外画

昭和甲戌

俳句俳画寿互録 全

春興

東都俳林 俳鐘社 発行

我庵は都の路地やさんま焼く

西男

神田台處町 田村氏

柳北の碑に人か立ちさくら餅

錦江

江戸川小岩町 山下氏

流星や女の唾の甘き宵

舟雪

本郷千駄木町 喜多川氏

(注 当該作品の翻刻の順序は「振だし」から
始まり左回りに進みます)

⑩ 振出しは日本橋なり春の旅

松畝

滝の川町 松田氏

振だし 困 一と廻りやすむ

青空に噓をすなり煤払ひ

一夢

大森都新地 加藤氏

⑪ 二度振り一の振にて数だけ戻り
二の振にてすゝむ

日盛りに音楽学校何の音そ

柳石

下谷新坂本町 飯塚氏

浅草三間町 江戸庵氏

紫の霞見に來い江戸にこい

機文

舞猿や芸仕尽して淋し顔

茶醉

日本橋人形町 子規亭氏

向島隅田町 三宅氏

春湖

浮人形ぬれたる方を買ひにけり

梅菊

神田岩本町 菅澤氏

お蝶米八 麴はつたに顔あつめけり

半茶

緑城

初月や此黒文字の皮の味

困 自転車て子供を背負ひ寒鴉

埜水

横浜永田町 山本氏

牛込山吹町 水野氏

ほへと

見世物の小屋の中なり冬の草

聖橋水は神田の花藻哉

翠帆

深川牡丹町 狩野氏

中野宮里町 松原氏

千玉

廿五と十九は若し初大師

劇通て蕎麦通そばてあり秋裕

春雨

深川富岡町 麦林舎氏

四谷新宿 宮川氏

双美

困 傾城けいせいに画を書かせたる扇かな

夏瘦や一重に広き帯の中

司山

神田岩本町 雪簑人氏

根津八重垣町 関根氏

春夢

鏡ほと朝の悔ある桜かな

鬼灯ほぼつきの苦みに馴れて秋の轡かや

一夢

浅草弁天山 伊藤氏

谷中真島町 宮岡氏